令和７年度浦安市青少年問題協議会　議事録

１　**開催日時**　　令和８年２月５日（木）10：00～11：30

２　**開催場所**　　浦安市役所　４階　Ｓ２・３・４会議室

３　**出 席 者**　　（会長）

浦安市長　内田悦嗣

（委員）

毎田委員、木村委員、山﨑委員、秋本委員、近藤委員、並木委員、船橋委員、新城委員、菅原委員、笠井委員、佐々木委員、日暮委員、大塚則之委員、下村委員、永井委員、大塚真理子委員

（説明者及び事務局）

浦安警察署　生活安全課

教育委員会　生涯学習部　青少年センター

教育委員会　教育総務部　指導課

健康こども部　こども家庭支援センター

健康こども部　青少年課

４　**議題**

(1) 令和７年中における少年非行等の状況について

(2) 青少年センターの補導状況について

(3) 青少年センターの相談活動について

(4) ネットパトロールについて

(5) いじめ・不登校の現状について

(6) その他

５　**議事の概要**

(1) 令和７年中における少年非行等の状況について

令和７年中における少年非行等の状況について、浦安警察署生活安全課より資料に基づき、非行少年等の検挙・補導人員等の説明があり、その後、意見交換を行った。

・非行少年の検挙人員については昨年同時期と比較すると千葉県全体で増加している。また浦安警察署管内においても増加している。

・不良行為少年の補導人員については昨年同時期と比較すると千葉県全体では増加しているが、浦安警察署管内においては減少している。

・非行少年の分類については窃盗犯が大半を占めており、窃盗犯の中でも万引きが半数近くを占めている状況。

・全国的に、ＳＮＳを通じて人権侵害事案が発生しており、若い世代へのＳＮＳ対策として、

市内の学校に出向き講演を行っている。

(2) 青少年センターの補導状況について

青少年センターの補導状況について、教育委員会生涯学習部青少年センターより資料に基づき、パトロール実績や補導状況等の説明があり、その後、意見交換を行った。

・４月から 12 月までの期間で 215 回のパトロールを実施しており、前年度と比較すると 85 回の増加となっている。
・地区別の声かけ人数については、駅や商業施設に近い、浦安、美浜、入船ブロックで多い傾向にある。
・補導内容については、帰宅指導が最も多く、次いで自転車の夜間無灯火、逆走などの自転車危険行為が多い状況。

(3) 青少年センターの相談活動について

青少年センターの相談活動について、教育委員会生涯学習部青少年センターより資料に基づき、相談実施状況や内容等の説明があり、その後、意見交換を行った。

・相談ケース数については前年度とほとんど変わらない状況。
・相談回数については、他の専門機関との連携を必要とするケースが少なく、前年度より８回減少している。
・問題行動の相談が増加傾向にあることから、少年非行との関係を踏まえ、引き続き注視するとともに、必要に応じて他の専門機関と連携が必要であると考えている。

(4) ネットパトロールについて

ネットパトロールについて、教育委員会生涯学習部青少年センターより資料に基づき、実績や状況等の説明があり、その後、意見交換を行った。

・ネットパトロールについては業務委託にて実施しており、インターネットへの問題ある投稿画像等を検索、監視し、その調査結果をレベルごとに分けて、学校へ情報提供を行っており、特に問題のある投稿については、早急に削除できるよう関係機関と連携し対処している。

(5) いじめ・不登校の現状について

いじめ・不登校の現状について、教育委員会教育総務部指導課より資料に基づき説明があり、その後、意見交換を行った。

・認知件数については、国においては令和３年度以降増加傾向にある。浦安市については前年度から 13 件減少しているものの、ほとんど同数の件数となっている。
・1,000 人あたりの認知件数については、国、千葉県と比較すると浦安市は非常に多い件数

となっているが、文部科学省の見解では、発生しているいじめを初期段階のものを含めて漏れなく認知したうえで解消に取り組むことが非常に重要であると考えており、本市は早期解消に向けた取組を進めるため、積極的に認知した結果であると考えている。

・「パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる」割合は小学校から中学校になると増加する傾向となっており、小学校段階での未然防止教育を推進していくことが必要であると考えている。

・不登校出現率は国及び県を下回っているが、不登校人数については年々増加している。

・不登校となった要因や背景は個々で異なることから、支援を検討する上では、学級担任だけでなく、関係する教員、スクールカウンセラーなどが連携し、それぞれの専門性を発揮しながら児童生徒に寄り添い、適切な支援につなげていく必要があると考えている。

(6) その他

ア．ヤングケアラー支援に関する報告

健康こども部こども家庭支援センターよりヤングケアラー支援の取り組みについて資料に基づき説明があり、その後、意見交換を行った。

・浦安市ケアラー支援の推進に関する条例が、令和８年１月１日から施行された。

・まずは、ケアラーは誰もがなりうるもの、身近にいるものであると知ってもらいたいと考えている。

・子ども達の中にはヤングケアラーである認識がなかったり、外部に知られたくないという思いから、表面化し難いという現状がある。

・支援として令和７年度より専門のコーディネーターを配置し、各家庭の状況にあった支援に繋いでいる。

イ．浦安駅前こども・青少年プラザに関する報告

健康こども部長より浦安駅前こども・青少年プラザについて説明があった。

・現在、浦安駅前にある放課後児童交流センターとして運営している場所について、就学前の親子から 22 歳までの青少年が利用できる親子の交流、子どもの居場所などの機能と気軽に相談できる場の機能を持つ、浦安駅前こども・青少年プラザを令和８年４月から新たに運営開始する。

６　会議経過

(1) 令和７年中における少年非行等の状況について

(2) 青少年センターの補導状況について

(3) 青少年センターの相談活動について

令和７年中における少年非行等の状況について浦安警察署生活安全課より説明。その後、関連

する議題であることから、青少年センターの補導状況について、青少年センターの相談活動について青少年センターより説明。

≪質問・意見≫

委　員：件数として表には出てこないような犯罪に子ども達が巻き込まれたり、手を染めてしまっているような状況、いわゆる暗数などについて感じていることがあれば教えいただきたい。

説明者：一定数あるかもしれないが、全体的な件数は減ってきている状況にあるため、減ってきているのではないかと感じている。

委　員：補導の男女比を教えていただきたい。

説明者：男性の方が多い印象である。

委　員：都内に通う高校生がＳＮＳを中心にネットで知り合った人からゾンビタバコをもらって服用しているなどの話を聞いたことがあるが、浦安市の非行少年の中にそのような事例はあるか。

説明者：把握していない。

(4) ネットパトロールについて

ネットパトロールについて青少年センターより説明。

委　員：発見後のフォロー等の状況を教えていただきたい。

説明者：問題のある投稿等の発見後については、教育委員会の指導課及び各学校への情報提供を行い、まず学校での対応をお願いしている。その後、学校から依頼があれば臨時パトロールという形でのフォローを行い、同様の内容での投稿がないかを検索している。

会　長：子ども達が日頃使っているツールは日々変わってきており、現在、子ども達はＸを使っておらず、ＴｉｋＴｏｋとＩｎｓｔａｇｒａｍが主流となっている。注意喚起をしていく上では、そこに手を伸ばしていくことが必要であり、それ以外にも通話アプリなどいろいろなものがあるため、今後は教育委員会や警察と連携していかなければいけないと考える。

(5) いじめ・不登校の現状について

いじめ・不登校の現状について指導課より説明。

委　員：被害児童への対応だけではなく、加害児童や親御様への指導の在り方についても検討していくべきである。

(6) その他

ア．ヤングケアラー支援に関する報告

ヤングケアラー支援についてこども家庭支援センターより説明。

委　員：どのようにして発見していくかが問題であると考えている。発見しやすいのは学校ではないかと思っており、地域ぐるみで連携して解決に向けて取り組む必要があると考える。

委　員：実際にヤングケアラーではないかと感じる子を目の当たりにしたことがあるが、本人は負担に感じていなかった。

委　員：地域によっては訪問を嫌がる方もいる状況である。やはり所属する学校での気づきが重要となる。情報を共有し、各団体で協力していくことが重要である。

会　長：情報を共有する上ではプライバシーの問題も関わってくるが、その垣根をどのように解決し、効率的に取り組んでいくかは市としての課題であると考える。今後も引き続き、意見交換を行いたい。

イ．浦安駅前こども・青少年プラザに関する報告

浦安駅前こども・青少年プラザについて健康こども部長より説明。

その他

委　員：青少年補導員が実施するパトロールについて、教員がパトロールに参加することで子ども達への印象が良く、啓発に繋がることから、積極的に参加をお願いしたい。